

第143号

2014.6.27

# ながの 社会福祉士会 NEWS

■発行：一般社団法人長野県社会福祉士会 ■会長：三村 仁 志  
■事務局：〒380-0836 長野市南県町685-2 長野県食糧会館 6 F  
TEL：026(266)0294 E-mail：hope@nacsw.com  
FAX：026(266)0339 http://nacsw.jp/ ■編集：広報編集委員会

目次	専門職として、実践を伝える力を高めよう！ ..... 1～3	重症心身障がい児・者シンポジウム ..... 8
	私の1冊～影響を与えてくれた本～ ..... 4～7	今後の予定 ..... 8 編集後記 ..... 8

## 専門職として、実践を伝える力を高めよう！ 平成26年度 福祉まるごと学会 盛大に開催！



平成26年5月24日(土)、長野市柳原公民館に於いて、107人の参加(会員82人、会員外25人)で開催。実践報告は4分科会16人が報告。総括シンポジウムでは、各分科会で4人の実践報告をコメントした上で、ソーシャルワーカーが専門職として、実践を伝える力を高めるために、示唆に富んだ提言がなされた。



小山順子氏 (コーディネーター)

シンポジスト・発表者・参加いただいた方に感謝の意を表します。  
今回の学会を通じて、専門職として一人ひとりが伝える力を高めていきたい。

### 総括シンポジウム



#### 専門職として説明を！

なぜ、権利擁護を学ばなければならないかという問いは、いわば社会福祉実践の根拠に通じる。何故そうしたのか、何故そのような行動をとったのか、専門職として説明できることが必要。

山口光治氏 (淑徳大学教授)



#### 支援の軸は何かを明確に

実践報告は業務説明ではない。社会福祉士は何をする人なのか、主体化し、客体化していくことが必要。

視点を明確化し、支援の軸は何かを持つことが重要となる。

内田宏明氏 (日本社会事業大学専任講師)



#### ピアレビューを提案

ソーシャルワークは単なる手続き論・方法論であってはならない。社会福祉士として介入した行為が、なぜソーシャルワークなのか、ということ伝えていかなければならない。そして、ピアレビューを提案した。

端田篤人氏 (長野大学准教授)



#### コトバの構造化を

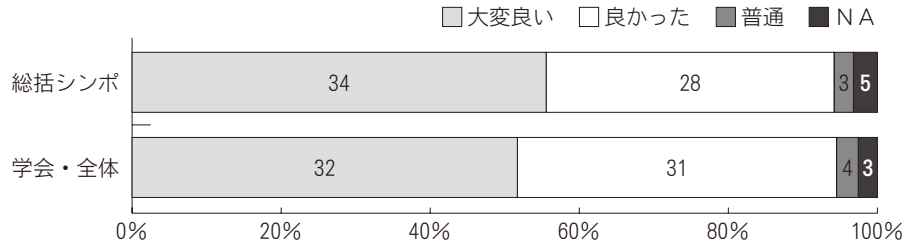
実践の結果だけではなく、何がどう変わったのか。変化の過程を伝えることが必要。「コトバ」は専門職の理解=住民の理解とならない場面が多々ある。コトバを構造化し、小さな理論化を目指す。

佐藤哲郎氏 (松本大学専任講師)

# 参加者アンケート

□回収数 70人  
□回収率 65.4%

総括シンポジウム及び学会全体の評価は右グラフのとおりであった。



総括シンポジウム及び学会全体の評価は、「大変良い」「良かった」を合計すると、参加者の約90%が良い評価をしている。それだけ内容があることが伺える。以下、主な具体的記述を紹介する。

## <総括シンポジウム>

- 各専門家の先生からのスーパーバイズが良かった。多分野について勉強になった。社会福祉士としての遣り甲斐をととても感じた等（8人）
- 各発表者の皆さんの実践を聴いた後、大学教授等の理論的説明・分析を聞けて、自分の中でもすっきりとまとまり大変勉強になった等（3人）。
- 社会福祉士には見えなくて良い、という言葉が印象的であった。社会福祉士としての価値・専門性をもう一度見直すことができた（3人）
- 分科会を受けてのシンポジウムの企画が良かった。スーパーバイズが良く参考になった。
- 行けなかった分科会の内容も伺うことができて良かった。他の事業所で取り組まれていることも自分の事業所に持ち帰りたい。
- 大学で教えている方の話をまとめとして聴講できたので今後も参加したい。
- 各分野の専門性のポイントが聞けた。非常に勉強になり、自分のSWの価値を再確認できた。

## <学会全体>

- 久しぶりにきちんと勉強できる機会をいただきありがとうございました。（3人）
- 資料集はよくまとまっていた。スタッフの対応も大変良かった。大変ありがとうございました。（3人）
- 準備が良かったと思う会場がGood（3人）
- 専門職でないため解らないことが多かった。仕事の上で非常に参考になった。ありがとうございました。（3人）
- スタッフの対応は大変スマートでフレンドリーで安心しました。分科会は全て聞きたい内容のもの、本当に全部参加したかった。（3人）
- 一般参加にさせていただいてありがとうございます。専門職として価値を持つことを大前提としてソーシャルワークを実践していくことが大切であると思いました。時系列を記録化し、根拠を持って伝える力を養いたい。（2人）
- とてもまとまっていました。この方式で参加者を増やしていくのが良いと思う。（2人）

## <分科会・実践報告>

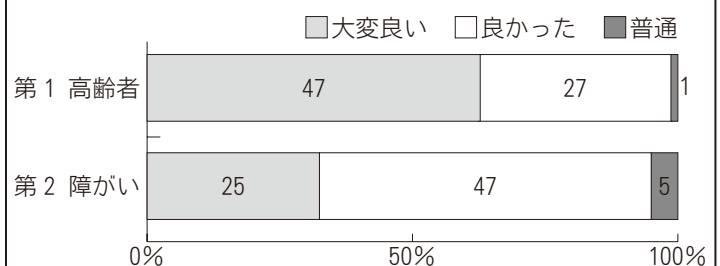
### <第1分科会 主に高齢者>

- 発表者も質問者も準備ができていてとても参考になった。（2人）
- 地域包括支援センターの内容と実践について学ぶことができ、良かった（2人）。
- 町としての取り組みがすごく勉強になった。
- 底上げが大事な分野であることを再認識した。
- 虐待の疑いのケースに行き当たった時のみ、慌てて対応することが多かったが全体を理解できた。
- 地域住民を巻き込んだ実践で、大変刺激をいただいた。



### 実践報告・発表者

第1分科会 高齢者関係	第2分科会 障がい者関係
清水 佑太（会員No. 47115）	宇佐見みどり（会員No. 24014）
宮下 京子（会員No. 39932）	山本 杉樹（会員No. 16807）
宮本 雅透（会員No. 14417）	澁澤 昌也（会員No. 46376）
福澤 智子（加入手続き中）	金川 優子（会員No. 18202）
運営：萱津公子／渋沢昌記	運営：浅井茂／成田かおる



## ＜第2分科会 主に障がい者＞



- 運営スタッフの「私は障がい者ではない」という方のお話。私も大切な考え方だと思い考えさせられ、今日参加して良かった。
- 「いくら障がいがあっても自分で選択できます」とは素晴らしいという言葉にも考えさせられ、参加して本当に良かったと思い、とても心が温かくなった。
- 利用者の考え、気持ちを大切に支援されている、参考にさせていただきたい。
- 上手くいったケースは聞いていて気持ち良かった。
- 困難事例の対応について、覚悟が必要だと思った。

○後見人とそれぞれのケアマネとの連携、ヘルパーステーションを1つに統一するという工夫などすばらしいと感じた。

## ＜第3分科会 主に児童・教育＞

- 事例を通してストレングスを生かすことの大切さや連携の難しさが分かった。
- 事例を聞くことができて良かった。
- 小さな町だからこその手厚い支援、羨ましく思いました。とても参考になった。
- 教育の立場で福祉を取り入れて子どもの成長につなげる……、素晴らしい取り組みです！これからも頑張ってください。
- 学校と保護者の地域を巻き込んだ取り組みの重要さを改めて実感できた。
- 子ども社会の厳しさ、社会の裏側の話とかとても考えさせられました。
- スクールソーシャルワーク（SSW）の実際、子どもたちの現状について分かった良かった。



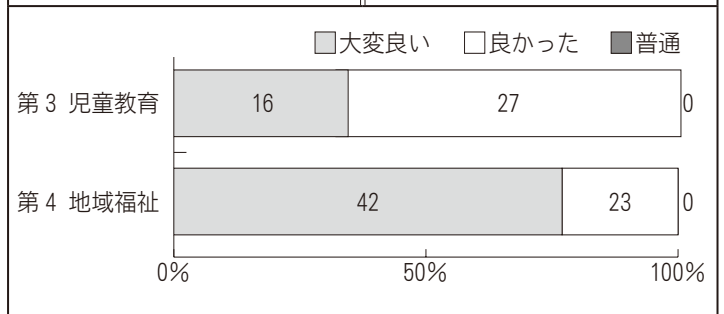
## ＜第4分科会 主に地域福祉＞

- 普段聞けない内容で良かった。
- 一般人としての参加なのに、自分が質問などをして大変恥ずかしかった。でも、参考になった。またいろいろな情報をいただき、講師の先生にそして運営スタッフの皆さんに深く感謝しています。
- 高齢者や児童など、自身にも実感のある分野の福祉レベルも決して高くなく、触法障がい者に関してはなおさらだということが理解できた。
- 地域生活定着支援センターの取り組みがよく分かった。これからの課題であることも……
- 成年後見業務が多岐に渡っていることがよく分かった。
- 地域の支え合い、ボランティア活動の大切さを学んだ。



### 実践報告・発表者

第3分科会 児童・教育	第4分科会 地域福祉関係
中川 峻介（会員No. 25825）	植田 博士（会員No. 27315）
宮木 芳子（会員No. 40337）	小池 正志（会員No. 391）
島田 和政（会員No. 43747）	毛利 公子（会員No. 964）
宮崎 貞子（会員No. 12478）	山崎 博之（加入手続き中）
運営：樋口忠幸／松山裕幸	運営：長峰夏樹／村山恭子



反省会・交流会：約40人が参加。参加者が少なかったことを悔しがりながら終日賑やかに開催。そして、来年南信州での開催に向けて、実践報告を名乗り出る人があり、北信・東信地区からは、バスをチャーターしてツアーを組もうという提案も出された。

# 私の1冊 ～影響を与えてくれた本～

広報編集委員会では、社会福祉士会に入会する会員を「仲間」として捉え、一人ひとりが人生の中で出会った大切な本、1冊を紹介してもらい、局面を打破したり、支え合ったりすることができればと平成26年度総会の出欠確認の際に同様の内容を記載いただきました。その中から、各地区2名ずつ「私の1冊」を紹介していただきました。～皆さんにも大切な1冊があるはず…。約1,000人の会員と共有しましょう！～

## Born to Run 走るために生まれた (NHK 出版)

地域包括支援センター富竹の里 小林 孝幸 (北信)



私の1冊～影響を与えてくれた本として紹介させていただくのは、「Born to Run 走るために生まれた」という題名の本です。健康志向でランニング、マラソンをなさる方が多いと思いますが、自分も山の中を走るトレイルランニングを5年ほど前から行い、気になる本として購入しました。何が気になるかといえば、題名の走るために生まれた？マラソン、トレイルランニングを行う者には、気にならないはずがない題名で目に飛び込むのではないのでしょうか。400ページに及ぶ長編で圧倒されましたが、この本はただ走ることが好きな人を対象にしている本ではなく、生活の糧として考えさせられるものでした。

まずは題名から走ることに関わる上で一番重要な物、それはシューズなのですが、シューズは長時間足を守るプロテクターとして足裏を守る機能が最優先と考えられ、人が走ることに負担となり好ましくないことと考えられています。しかし、走ることが身体的なダメージの根本ではなく、実は過保護にまでサポートされたシューズが人間本来の走る機能を退化させているという内容でした。シューズのソールが厚ければ厚いほど足裏を守り、身体ダメージを減らすという常識ですが、足裏は高度な痛覚センサーであり裸足に近いほどダメージを抑える役割があり、ソールの厚い靴と薄い靴を履いて走り、足の故障の出現を比べたデータでは、薄いソールの靴を履いて走ったほうが低かったとのことでした。

データだけでは答えがでないことなのですが簡便になった世の中で、人間本来に備わっている能力が抑制されている事象として考えさせられる内容でした。この本の内容から2点について学びました。①として多数の人が常識としている事柄が正解ではなく、視点を変えて考えることも必要なこと。②として人間としての備わるすばらしい機能を生かす大切さ。

奇抜な題名と内容がリンクする書籍に出会えることを楽しみにしています。

データだけでは答えがでないことなのですが簡便になった世の中で、人間本来に備わっている能力が抑制されている事象として考えさせられる内容でした。

奇抜な題名と内容がリンクする書籍に出会えることを楽しみにしています。

## ケースワークの原則 援助関係を形成する技法 (誠信書房)

社会福祉法人 高水福祉会

ふっくら工房ふるさと 成田 かおる (北信)



私の1冊を紹介します。私がこの本と出会うことになったきっかけは、社会福祉士の大先輩に「対人援助技術を学びたいと思っているが、どうしたらいいのかわからない」と相談をしたところ、お勧めしてくださったのがこの本でした。

私は、障害者就労支援施設に勤務しています。利用者との関わりの中で、話をするのはとても大切なことだと日々感じています。話をする中で相手の気持ちやニーズをくみ取り、はじめて支援をすることができます。ただ話をするのは簡単なことですが、本当の考えや気持ちを聞き出すためには、信頼関係を築き、「相手」が心を開かなければなりません。信頼関係を築くためには、話す技術が必要です。そう考えたときに、私には対人援助技術が必要だと考えました。

この本には、バイスティックの7原則について詳しく書かれています。大学での授業や社会福祉士の国家試験の勉強で出てきたので、対人援助技術の基本であることはわかっていましたが、本を読んでいくと、原則の理由や事例、なぜ対人援助技術が必要であるのかなどが書かれており、改めて私自身の行っている支援を見直すきっかけとなりました。また、対人援助技術は、支援だけに有効な技術ではなく、職場の職員同士での関係や、保護者との関係等、人と関わることにすべてに用いることができるのだということがわかりました。

「人と人とのあいだで営まれるさまざまな関係こそ、人間に真の幸福をもたらす主要な、おそらくは唯一の源泉と考えられる」この本で特に印象に残った部分です。人は、人との関係から幸福を見出す。私は、たくさんの方に支えられて生きているのだと日々感じています。職場の先輩、後輩、同期の仲間、北信地区の若手社会福祉士の仲間、そんな若手を見守ってくださる先輩方、地域の方など、関わりが多ければ多いほど、心強い気持ちでいっぱいになります。そんな、心強く幸せな気持ちを、利用者の方々にも感じてもらえるよう、関係を築いていくことのできる支援をしたいです。

## 君はダックス先生がきらいか (大日本図書)

社会福祉法人 中信社会福祉協会  
障害者支援施設 あい・アドバンス今井  
窪田 秀志 (中信)



私がこの本に出逢ったのは、35年程前に福祉系の大学で障害福祉を学ぶ中で、養護学校の教員免許取得を目指している頃、授業を担当する教授より、この本を読みレポートを提出せ

よとの課題が出された事によります。内容は、実話をもとに見かけの冴えない小学校の先生と児童の生活を描いたものです。

最初はタイトルが不思議だし、中身は小学生でも、十分に読み理解できるような易しい文章であったため、疑問を感じながら読み進めた記憶があります。

私は現在、障害者支援を主な事業とする、社会福祉法人の中で、知的障害者支援施設の「サービス管理責任者及び支援課長」を務めております。

この本で直観的に感じ学んだことが、今の仕事への基本姿勢に、極めて重要な影響を自分に与えてくれたのではないかと感じています。

一人一人の子どもに、さり気なく誠実に向き合い、子どもの言動が生じる背景や心情を敏感にキャッチできる感性の大切さ。つまり、対人援助の根幹は、人の気持ちを理解できる感受性、人間性の豊かさにあるという事を学んだように思います。

また、教師でも自分の弱さや、生きざまをありのままに子ども達に正直にさらし、子どもを一人の人格として尊重している姿勢に、真の対等の関係性を学んだように思います。

さらに、最近でこそ理解が深まりつつあるADHDなどの障害児を、クラスの仲間が個性として、自然に受け入れ共に成長する姿に、この様な経験を小学生のうちにできることは、ノーマライゼーションの学びにつながると改めて考えさせられました。

このように題名からは想像できない、奥の深い、小学生から大人まで、爽やかな気づきをもたらしてくれる素敵な一冊です。

## 鬼 畜 (双葉文庫)

介護福祉士養成施設 上田福祉敬愛学園  
古居 多恵子 (東信)



しかし、安眠に就くことが目的だったはずが、結局のところ、一晩かけて読み切ってしまうというのが現実です。元来の性格が「せっかち」なんですね。次の展開が非常に気になってしまい、安眠に就くはずが、反って脳を覚醒させてしまっている始末です。

好きな推理小説は横溝正史、内田康夫、西村京太郎、山村美沙など2時間サスペンスドラマでもお馴染みの小説家の作品から始まり、東野圭吾、宮部みゆき、湊かなえ。社会派推理小説家の松本清張はとても好きな作家です。中でも、「鬼畜」という作品は私の中でとても強烈な印象を与えた作品です。

平凡で気が弱い男が、小さいながらも印刷会社を立ち上げる。女房以外に好きな女を囲い、その女との間に3人もの子供も設けたが、不況の影響で仕送りをする事ができなくなった。そんな男のもとへ、愛人が子どもを連れ金の無心をするが、どうにもならないことを悟り、女は男の家に子供を置き去りにし、自分は去ってしまう。何も知らなかった、男の女房は、激怒し子供たちを虐待しつづける。その後、満1歳にも満たない男の子は、育児放棄、栄養失調の挙句亡くなってしまふ。

その後も男は、毎晩子どもを始末するよう女房に言われ続け、徐々に追い込まれていく。そして長女(二番目)の女の子を人ごみに紛れ置き去りにする。長男は置き去りにしても自分の名前や住所が言えることから、置き去りにすることが不可能と判断し、毒殺を図るが果たせず。最終的に崖からつき落とし殺そうとする。幸い命拾いした長男は、警察で父親に殺されかけたことは決して語らない。そのいじらしさ、悲しさが何とも言えず涙が出て仕方がありませんでした。

この作品を読んだ時の衝撃は今でも忘れられません。あまりにも親や大人の身勝手さ、弱さ、醜さが浮き彫りにされていて、本当に吐き気を覚えるほどでした。貧しい時代だったとはいえ、人間は追い詰められると、これほどまでに人間の心をなくしてしまうものなのか。子供は親がいなければ生きていけない。大人である我々はわかっているはずなのに追い詰められることで、いとも簡単にそれを放棄するという事。その罪は計り知れない。しかしこういったことは決して他人事ではないと思うのです。虐待するという事はそこに至るまでの環境や背景があるのでしょうか。もしかしたら自分だって「鬼畜」の心を抱く瞬間があるかもしれない。しかし、どのような環境であれ、自分の子どもや、家族、身近な人々を愛慈しむことができたならどんなに良いでしょうか。私も福祉の仕事に従事する人間の一人として、虐待などの犯罪を未然に防げるような世の中になることを願いやみません。そんな願いをより一層強くした作品でした。

## 折れない心をつくる、たった一つの習慣 (青春出版社)

社会福祉法人 松本ハイランド  
特養ゆめの里 朝日 倉科 準二 (中信)



私に影響を与えた本は心理カウンセラーと産業カウンセラーとして活躍されている植西聡さんという方が書かれた『折れない心をつくる、たった一つの習慣 (青春出版社)』という本です。この本は私が購入したものではありません、数年前に妻が持っていた本を何の気なしに手にして読み出したものです。内容は折れやすい心を鍛えて、打たれ強い自分になる為の考え方をわかりやすく説明してあります。タイトルのみご紹介いたしますと (1. 今の自分を否定しない 2. マイナスの人から離れる 3. 厳し過ぎる自分を見直す 4. 他人の基準に合わせない 5. できる部分に目を向ける 6. 自分からアクションを起こす 7. 目の前の事に集中する 8. やってみたいことリスト作り 9. 自分のために相手を許す 10. 不安なときこそ整理) となっています。確かスポーツドキュメント番組で、オリンピック代表の座をかけて競い合う女子体操選手で、腰痛のため惜しくもロンドン五輪を棄権した方が、“心が折れかけたときに”自分を奮い立たせるため手に取って読んだ本として紹介されていたのを記憶しています。私は特養で生活相談員と管理職を兼務していますが日々の仕事の中で社会福祉士としての悩みよりも、専門外の業務もこなしている為、そちらの方でストレスが生じることが時々あります。この本はそれを解消するカンフル剤のようなモノになりました。社会福祉士の専門性からすると、この本はどうかと言われてしまいそうですが、専門外でくじけそうなことが生じた時に読むと、人よっては参考にさせていただけるかもしれません。

## 『ルラルさんのバイオリン』 (ポプラ社)

ケイジン地域ケアセンター申込 宮木 芳子 (東信)



福祉の仕事をする前は、某大手音楽教室でピアノを教えていました。小さい頃から、毎日練習するのは当たり前、レッスンでは音を間違えることは許されず、いかにテクニックを身に付けるか、という教育を受けてきた私はそれはそれは厳しく怖い先生でした。生徒がレッスンに来て課題が弾けないことも信じられなかったし、同じところを何度も間違えることにもイライラしていましたから…

そんな時、この本と出会いました。

主人公のルラルさんは、小さい頃町のオーケストラ団員だったお父さんバイオリンを教えてもらっていましたが、なかなか上手にならなくてバイオリンをやめてしまいます。大人になって、偶然に仲間に頼まれて弾くことになり、躊躇しながらバイオリンを弾くと……なんと仲間が「おもしろい音だね。こんな音めつたに聴けないぜ。」と褒めてくれるのです。お父さんとの大切な思い出のバイオリン。実は昔お父さんも「なかなかおもしろい音だよ。」と褒めてくれたことを思い出し、みんなで演奏を楽しむ…というストーリーです。

うまく表現できませんが、初めてこの絵本を読んだとき「そんなに肩に力を入れなくても、楽しみ方って人それぞれなんだ。」とひらめいたのです。完璧に弾けなくても音楽って楽しんでいいんだと思った瞬間でした。



ケアマネをしている現在、様々な人々に出会います。『ルラルさんのバイオリン』を読み返すと、「肩の力を抜いて、人それぞれでいいんだよ。」と語りかけてくれるようで、いつも私の心の中にある大切な一冊です。

## 報告 平成26年度 総会

平成26年5月24日(土)16時30分から18時00分まで長野市立柳原公民館にて開催しました。

会員946人のうち、出席者71人、書面表決148人、委任状286人により定款に従い、総会が成立し、小林千春会員(長野市社会事業協会)を議長に議事を行いました。

第1号から第6号議案について説明の上、質疑応答を得て、全て賛成多数で承認されました。

## 情報 地域における医療・介護の総合的な確保を図るための改革

医療・介護は、プログラム法(平成25月12月成立)の規定に基づき、高度急性期から在宅医療・介護までの一連のサービスを地域で総合的に確保し、地域における適切な医療・介護サービスの提供体制を実現することで、住み慣れた地域での継続的な生活を可能とすることを目指します。この改革で、介護保険制度の地域支援事業による要支援者の予防給付、利用者負担、特別養護老人ホームの入居要件などが見直されます。

## グリーンレクイエム (講談社文庫)

社会福祉法人 長野県社会福祉協議会

伊那生活・就労支援センター 北原 幸吉 (南信)



この本は新井素子氏が書いたSF小説であり、植物も動物同様に生きているという強いメッセージが伝わってくる作品です。主人公は植物学者の助手をしている青年です。幼い頃実家の裏山に迷い込み、その洋館で緑の長い髪の少女と出会います。後に裏山が火事になり、洋館諸共燃えてしまいます。何年後に青年は偶然入った喫茶店で、少女の面影を持つ女性と出会います。その彼女は洋館の少女と同一人物であり、

この出会いが悲劇へとつながって行くこととなります。

作品中、緑の髪の女性の影響を受けて意思を持った植物たちが、反乱を起こすかもしれないと科学者達は危惧し、主人公達を追い詰めていきます。現実世界の植物は歩いたり話したりはしませんが、植物同志の間で危険を知らせる物質のやり取りがあることは確認されています。人は植物を生き物としてではなく、どこかオブジェの様にとらえているような気がします。歩かない、鳴かない、抵抗しないため生物として捉えにくい部分なのかもしれません。しかし植物も他の動物と同じく生きています。花等を育てる時、話しかけたり、音楽を聞かせると花が綺麗に咲くといわれています。まだ人が気づいていない植物の生態というものがあるのかもしれません。

声を上げることのできないのは、植物に限ったことではありません。人にも同じことが言えます。置かれた環境、自尊心、羞恥心、コミュニケーションスキルの不足、言いたいことがあっても言えない、誰にも相談できない、声にならない声というものが厳しい環境になればそれだけ増えていく気がします。聞こえない声は存在しないのではなく、確かにそこにあって、誰かに助けを求めたいと思っているのかもしれません。そうしたサインを見逃さない感度というものを保つことも大切だと感じます。

この物語の最後、ヒロインは主人公を信じ切れずに悲劇を迎えます。人の心の中は見ることができませんから人を信じきることは、難しいことかもしれません。しかし絶えず人を疑い、人を遠ざける生き方をすると、とても寂しい人生を送ることになります。信じられる友人、知人を作って実りの多い人生を送りたいものだと思わせてくれる物語です。

## 佐藤可士和の超整理術 (日経ビジネス人文庫)

社会福祉法人 諏訪市社会福祉協議会 若尾 昌充 (南信)



「影響を与えてくれた本」は、仕事を進める上で頭の中をスッキリと整理してくれる役目を持っていること、そして生活の上では自分の思いを右か左か快適に判断できるための役目を持っていること、以上の2点からアートディレクター佐藤可士和

著「佐藤可士和の超整理術」を紹介します。

実はこの本は2007年売り上げランキング快走中のベストセラーでしたが、私の中では「価格が下がるまで待つて読みたい本」の上位にランクされていました。手元に来たのは2年後の2009年、もっと早く読んでおけばと悔やむこととなりました。

著者の紹介を少し。ホンダ初代ステップワゴンのCM、明治学院大学のシンボルマーク、国立新美術館のシンボルマークなど、誰もが一度は目にしたことのある作品を生み出すアートディレクターです。同時に多くのプロジェクトこなしながら常に高い精度を保つ、仕事を速く進めるための秘訣が「整理を徹底すること」といい、その方法を「空間」「情報」「思考」の3つのステップで解説しています。

その方法は身近で具体的なカバンの中身の整理から始まり、デスク周り、パソコン、オフィスと段階を踏み、情報、思考という抽象度の高いレベルに進んでいきます。身近な空間を整理するにはプライオリティーをつける。プライオリティーをつけるには、視点を導入する。視点を導入するには、物事を引いて見つめる、思い込みを捨てることで考えを言語化・情報化する。と、仕事を進めていくプロセスの整理が明快で、あらゆるビジネス、ひいては生き方にまで応用できそうです。何やら難しそうですが「モノを絞ってスッキリと気持ちのいい環境のなかで、効率的に仕事がしたい」という言葉のまま、シンプルで整然としたオフィスの写真が更に説得力を増す本です。

もう1冊は、絵本です。「いいこってどんなこ？」(ジーン・モデシット文 ロビン・スポート絵)うさぎのバニー坊やが「ねえ、おかあさん、いいこってどんなこ？」とたずねます。おかあさんうさぎはひとつひとつの問にやさしく答えます。ぜひ読んで感してください。

平成26年度

# 重症心身障がい児・者シンポジウム

## —地域で暮らし続けたい！そのために……今必要なこと—

“どんなに障がいが重くても、生きがいをもって充実した生活をしたい”という当事者の願い。

“その人らしく、充実した生活をさせてあげたい”という家族、関係者の願い。

この極々当たり前の素朴な願いを抱えている方々の県内の状況、

地域等の状況は今どうなっているのでしょうか？

私たちは、これらの素朴な願いをどう実現し、どう支えていくか、

より良い地域づくりをめざして、

今我々は、何をしたらよいのか等一緒に考え、行動をともに起こしませんか

まずは、理解を深めるためにシンポジウムをお誘い合わせの上参加をお願いします。

- 主催 一般社団法人長野県社会福祉士会
- 後援(予定) 上田市／上田市社会福祉協議会
- 日時 平成26年7月26日(土) 13:00～16:30 (受付12:30～)
- 会場 長野大学 リブロホール
- 内容 基調報告 亀井智泉氏(長野子ども療育推進サークルゆうテラス)  
基調講演 生田日昭彦氏(社会福祉法人十愛療育会、横浜療育医療センター生活援助部部长)  
シンポジウム テーマ「地域で暮らし続けたい！そのために…今、必要なこと」
- 参加者 定員 200名(ご本人、ご家族、医療・福祉・行政・教育関係者、どなたでも)
- 参加費 無料
- 問合せ 長野県社会福祉士会事務局 TEL:026-266-0294 FAX:026-266-0339

※この事業は、長野県地域発元気づくり支援金で開催されます。

### 今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ (<http://nacsw.jp/>) をご確認ください。

日時	会場	内容	備考
7月5日(土)	千曲市埴生公民館	北信地区学習会	テーマ「成年後見支援センター」
7月12日(土)	松本市総合福祉センター	社会福祉士基礎研修Ⅱ	8/9、9/6、7、10/5
7月13日(日)	松本なんなん広場	後見人養成研修	8/30・31、10/11・12
7月16日(水)	長野県教育センター	高齢者虐待対応標準研修	7/23、8/19
7月17日(木)	さんとぴあ第一学習室	南信地区学習会	
7月26日(土)	長野大学	重症心身障がい児・者シンポジウム	ソーシャルワーカー連動企画
	長野大学	社会福祉士実習指導者講習会	
8月2日(土)	県社会福祉士会事務局	第2回理事会・拡大運営委員会	
8月23日(土)	上田市ふれあい福祉センター	社会福祉士基礎研修「受講者からの視点」	
	浅間病院東棟会議室	東信(佐久地区)学習会	テーマ「矯正施設出所者支援」
9月12日(金)	さんとぴあ	まるとと学会in南信州	テーマ「権利擁護」
9月27日(土)	松本勤労者福祉センター	中信地区学習会	
9月28日(日)	長野大学	社会福祉士基礎研修Ⅰ	
10月5日(日)	長野大学、松本大学	社会福祉士国家試験統一模擬試験	
10月19日(日)	県社会福祉士会事務局	第3回理事会・拡大運営委員会	
10月25日(土)	浅間病院大講堂	まるとと学会in東信	テーマ「エンディング」
11月11日(火)	長野市若里市民ホール	介護の日県民の集い	共催事業/実行委員会
11月14日(金)	松本市浅間温泉文化センター	プレ福祉まるとと学会	『獄窓記』山本譲司氏 来県

◎入会状況(平成26年5月末現在) \*会員数:978名(男性会員:447名 女性会員:531名) 入会率:31.60%

### 編集後記

本が大好きだった子ども時代、本を借りては宿題そっちのけで読みふけていました。本は様々な時代、場所に連れて行ってくれ、多くの人やその人生に出会わせてくれました。また、新たな知識やいつもと違う物の見方や考えるきっかけを与えてくれました。

しかし、最近は本を手にとる時間が減ってきてしまっています。みなさんはいかがでしょう？今回、様々な本の紹介がありました。ジャンルも様々、どれも興味深い本ばかりです。

梅雨の季節、雨の日の休日はコーヒーでも淹れて、会員さんの紹介して下さった本を手に取り、人として、専門職としての引き出しを増やしていきませんか？

(T)